

苏联模式的历史反思

武汉大学马克思主义学院 曹亚雄

苏联产生和苏联的解体也许是 20 世纪人类最大的历史事件之一。在某种程度上讲，二十世纪所发生的重大历史事件，几乎都与苏联发生一定的关系，因此，客观评价这些历史事件是无法绕开对苏联和苏联模式的评价。同时，二十世纪也是人类最值得总结和反思的世纪，总结二十世纪的发展规律，总结和吸收其经验教训，对于我们正确认识人类社会历史发展规律具有特殊的历史意义。因为苏联作为曾经的世界第二大强国，它不仅领导和帮助成立了一个庞大的社会主义阵营，而且对发达的资本主义国家和广大发展中国家也产生了重大影响，这些影响十分巨大，直到今天仍然存在。对于信仰社会主义的国家和人们来说，对于那些对马克思主义和社会主义仍然有一定兴趣的人们来说，苏联是第一个完整将社会主义理论转化为实践的国家，存在许多未解的历史之谜，研究苏联和苏联模式会给我们对社会主义的未来前途和命运，对正在进行的世界社会主义的建设和世界社会主义运动具有一定的历史意义。正因如此，历史的硝烟已经散去 20 多年，但是，如何评价苏联和苏联模式仍然是学术界和政治界的一个持续不断的一个热点话题。到目前为止，发表论苏联的文章和书籍汗牛充栋，召开的学术研讨会也不计其数。然而，令人遗憾的是，由于各种意识形态的影响，对苏联和苏联模式的评价总有失之偏颇之嫌，难以准确和客观的评价它，从而给我们揭示历史发展的规律形成了障碍，从而使得我们对马克思主义、社会主义的性质、历史地位和作用评价产生了负面的影响。本文试图对当前存在的几个主要的观点进行分析和评述，希望对 21 世纪社会主义的认识有一定的历史借鉴意义。

1、苏联模式的历史地位和作用

当前评价苏联模式主要存在两种观点，一种是将苏联模式等同于社会主义，苏联模式失败了，证明社会主义失败了，证明社会主义不是历史的必然，或者至少说明社会主义是早产儿。美国学者福山《历史的终结》就是这种观点的主要代表，并在西方具有普遍性，在我国国内也有少数人持这种观点，它通常以社会主义不能跨越卡夫丁峡谷，一国不能率先进入社会主义以及中国社会主义改造没有必要等观点出现。这种观点的实质就是将苏联模式等同于社会主义制度，苏联模式的失败就是社会主义制度的失败。另一种观点就是将苏联模式等同于苏联的体制，这种体制是错误的，违背和扭曲了马克思、恩格斯的社会主义的本意，因此，它苏联东欧的失败是必然的。这种观点在西方各种社会主义思潮中普遍存在。在我国，也有人支持这种观点，这种观点的基本做法是将我国改革开放前的中国看作苏联模式的翻版，把中国存在的问题归纳为苏联模式的错误，并把中国特色社会主义当做中国克服苏联模式而创造的新模式，通过这种比较突出中国特色社会主义的科学性。应该说，这两种主要观点都有自己的合理之处，但是，也都有自己的偏颇之处。其根本的焦点是没有把苏联模式看作既是一种制度，也是一种体制。首先，苏联率先将马克思主义关于社会主义的基本原则运用到现实生活中，建立了人类历史上第一个社会主义政权，确立了人民当家作主的社会主义政治制度，生产资料公有制的制度和社会主义文化制度以及各种社会生活制度。这一系列制度的确立，使得科学社会主义从理论变为实践。这种制度的建立，打破了资本主义一统天下的局面，为世界社会主义运动树立了现实的光辉典范。可以说，没有苏联社会主义制度，世界社会主义制度建设还在黑暗中探索。而苏联社会主义制度的建立，充分地促进了社会经济的发展，使得社会主义优越性得到充分发挥，有力地推动了世界社会主义的进程。其次，苏联在建设社会主义制度的过程中，无疑要根据本国的国情出发，实现科学社会主义的苏联化。针对当时社会主义制度刚刚建立，经济文化比较落后，世界资本主义封锁、干涉和颠覆，采取了高度集中的计划经济体制和高度集中的国有制经济体制，权利高度集中的政治体制，采取

国家集中办理文化、体育卫生事业的举国文化体制等等。这些体制，既体现了制度的根本要求，也是对苏联当时国际国内情况的具体反映，在某种程度上讲，是具有苏联特色的社会主义体制。应该说，这些体制，为苏联经济社会各种事业的快速发展做出了巨大贡献，也为其他社会主义国家建设适合本国国情的社会主义体制提供了现实样板。今天，我们在评价苏联模式的时候，不能仅仅看到它的体制存在的一些弊端，而要看到苏联模式的社会主义制度属性，承认我们对其的继承和发展。否则，我们无法解释社会主义制度的历史，也无法为我们建设的社会主义制度提供有力的理论支撑。

2、苏联模式解体的根本原因

苏联解体的原因很多，西方学者和中国都做出了很多解释，归纳起来达几十种之多，如有的将其归纳为戈尔巴乔夫背叛革命；有的将其概括为经济奔溃；有的说党员干部官僚主义腐败变质，脱离群众；也有人说军备竞赛拖垮了苏联，还有的说是美国的和平演变等等。这些当然都是其中的因素，但是，个人认为，苏联模式失败的根本原因在于苏联没有很好的根据国际国内形势的变化，合理地调整自己的制度和体制，致使社会主义的优势和吸引力没有发挥出来，从而既使得人们的经济生活得不到改善，又使得人民的价值和尊严没有得到满足，还导致人们对社会主义理想和信念的缺失。当然，这不是等于说苏联模式从一开始就是错误的，是失败的。恰恰相反，苏联模式在刚刚建立的时候，既充分发挥了社会主义制度的优越性，也充分发挥了体制的优越性，正是制度优势和体制优势的叠加，使得苏联在短短的时间内充分发展起来，并积淀了雄厚的综合国力，使之能够同美国抗衡，在全球争霸。如果没有制度的优势和体制的优势，很难以解释苏联崛起。这种制度优势和体制优势的叠加效应在许多社会主义国家建立的初期都得到反映，包括东欧、中国等。然而，任何体制的建立是有其特殊的历史条件的，在这种历史条件下，体制能够发挥很好的效用。如果条件变化了，体制的边际效用会递减乃至负效用。苏联体制建立的初期，经济困难和外在颠覆和封锁，使得集中的经济、政治和文化体制具有极强的资源动员能力，能够克服严重的短缺和困难，但是，随着社会经济条件的改善，国际环境的宽松，这种集中的体制会影响人们的积极性、主动性和创造性，阻碍效率的发挥。这种情况其实苏联领导人早就意识到了，并且进行了改革。如赫鲁晓夫、勃列日涅夫、安德罗波夫等，也采取了许多改革措施，但是，这些改革并没有从根本上解决体制滞后的问题，也没有充分考虑到变化了的国际国内情况，体制的劣势凸显出来了。后来的戈尔巴乔夫试图从根本上改革体制，但是，改革的方向和方法使得苏联彻底改变了社会主义制度，使得不仅体制的优势没有了，而且制度的优势也没有了，从双优组合转变为双劣组合。这种组合必然导致社会主义的解体。而东欧的失败既存在苏联失败的普遍原因，也存在着如何根据自己的国情选择和调整自己的体制，而不能照搬照抄苏联模式的体制的特殊原因。因此，不能把东欧失败的原因归咎于苏联模式，而应该归咎为没有创造性的学习苏联体制和不断根据本国国情调整自己的体制。

三、中国特色社会主义与苏联模式的关系

关于中国特色社会主义与苏联模式的关系，一些学者进行了探索。其占主流的观点是改革开放前，中国是照搬照抄苏联模式，改革开放后，中国抛弃了苏联模式，建立了自己的中国特色社会主义。言下之意，是苏联模式是错误的，不抛弃苏联模式，我们就不能开创新道路。也有学者认为，过去苏联模式不适合中国国情，因此，我们过去建设不太成功。现在我们成功探索了自己的道路，所以中国快速发展。这些提法，似乎有道理，但是，总觉得逻辑上有点问题。本文认为，中国特色社会主义与苏联模式之间不是仅仅的照搬和抛弃的关系，而是一种更为复杂的关系。首先，中国学习和借鉴了苏联模式的制度层面，在中国建立了社会主义制度，这种制度促进了中国社会的进步和发展。因此，在制度层面，我们中国特色社会主义与苏联制度上，存在一定的继承性。同时，我们既借鉴了苏联体制的长处，也克服了其短处，在此基础上，我们建立了自己的体制，具有一定的创新性。早在党的八大上，我党

就对苏联体制和做法进行了反思，并根据国情对中国未来发展道路和策略进行了部署。苏共二十大后，中国共产党就对苏联存在的问题进行了分析，并提出不能重蹈苏联的覆辙。中苏关系恶化后，中国更是对苏联的体制和制度进行了严厉的批评，并将其称为沙文主义和霸权主义。在那种情况下，说中国模仿苏联模式是难以成立的。可见，我们其实在建国后就在探索中国自己的道路和体制，这种探索在一定程度上也获得了成功，解放后我们建立的许多制度就运行很好，促进了中国快速发展。但是，随着时间的推移，条件的改善，我们自己创造的体制既不完善，也不适应新的变化了的国情和国际环境，弊端日显。因此，本人认为，改革开放前我们存在的弊端不是苏联模式的错误，而是我们中国传统体制的不成熟、不完善。我们改革开放后就是在吸收和借鉴过去中国传统体制经验教训的基础上，不断在新的情况下创造适合中国最近国情的体制的必然结果。我们不能把中国过去的错误全面归咎苏联模式，这样既不客观，也不公平，也不能把今天的所有成就归因为中国特色社会主义，而忽视了苏联制度对我们的奠基作用和苏联体制对我们的借鉴。总之，中国特色社会主义既是苏联模式的继承和发展，也是我们根据国情的创造。我们应该进一步科学评价苏联模式的历史地位和作用，推进社会主义事业进一步发展。

ソ連モデルの歴史的反省

曹亜雄（武漢大学マルクス主義学院）

ソ連の誕生とソ連の解体は、20世紀の人類最大の歴史的事件の一つかもしれない。ある程度から言えば、20世紀に起きた重大な歴史的事件は、ほとんどソ連の発生と一定の関係がある。従って、この歴史的事件を客観的に評価するには、ソ連とソ連モデルの評価を避けることはできない。同時に、20世紀は人類が最も総括し反省するに値する世紀であり、20世紀の発展法則を総括し、その経験と教訓を総括し吸収することは、われわれが正確に人類社会の歴史の発展法則を認識することに、特殊な歴史的意義がある。ソ連はかつて世界第二の強国であったので、大きな社会主義陣営を成立させ指導しただけでなく、発達した資本主義国や広大な発展途上国にも大きな影響を生み出した。これらの影響は非常に大きく、今日に至っても依然として存在している。社会主義を信じていた国や人から言えば、マルクス主義や社会主義に依然として一定の興味を持っている人から言うと、ソ連は最初に社会主義理論を完全に実践に転化した国であり、多くの未解決の歴史の謎が存在している。ソ連とソ連モデルを研究することは、社会主義の未来・前途と運命に対して、進行中の世界社会主義の建設と世界社会主義の運動に一定の歴史的意義がある。だからこそ、歴史の煙は二十数年以上前に消え去ったが、ソ連とソ連モデルをどう評価するかは、依然として学术界と政治界のとざれることのないホットな話題なのである。現在まで、ソ連を論じた文章や本、シンポジウムはおびただしい数になっている。しかしながら、残念なことは、さまざまなイデオロギーの影響で、ソ連とソ連モデルの評価はいつも偏りがあり、正確に客観的にそれを評価するのは難しく、我々が歴史発展法則を明らかにすることへの障害となっている。そして、マルクス主義、社会主義の性質、歴史的地位と役割を評価するに、マイナスの影響を生み出している。この文は、現在存在しているいくつかの主要な観点に対して分析と評価をおこなうことを試みる。二一世紀社会主義の認識に一定の歴史的参考意義があることを希望する。

一、ソ連モデルの歴史的地位と役割

今日のソ連モデル評価には、主に二つの観点がある。一つはソ連モデルを社会主義と同じとし、ソ連モデルが失敗したことは社会主義が失敗したことを証明し、社会主義は歴史の必然ではないことを証明した、あるいは少なくとも社会主義は夭折した未熟児だと説明

するものである。アメリカの学者フクヤマの『歴史の終わり』はこの観点の主な代表であり、西側では普遍性をもっている。我が国でも少数の人がこの観点をもっており、普通、社会主義はカフティン峡谷を越えることはできず、一国が率先して社会主義に入ったり、中国の社会主義改造は必要ないなどの観点として現れている。この観点の実質は、ソ連モデルは社会主義制度に等しく、ソ連モデルの失敗は社会主義制度の失敗だということである。

もう一つの観点は、ソ連モデルはソ連の体制と等しく、この体制は間違っており、マルクス・エンゲルスの社会主義の本旨に背き、歪曲しており、だからソ連東欧の失敗は必然だとする。この観点は、各種の社会主義思潮の中に普遍的に存在している。我が国でも、この観点を支持する人がいる。この観点の基本的内容は、改革開放前の中国をソ連モデルの引き写しだとみなし、中国に存在する問題をソ連モデルの誤りに帰納し、中国特色社会主義を中国がソ連モデルを克服するために創造した新モデルだとみなし、この比較を通して中国特色社会主義の科学性をかなり際立たせる。二つの主要な観点は、それぞれ理にかなった点がある、というべきである。しかし、いずれも偏ったところもある。その根本的な焦点は、ソ連モデルを一つの制度であるだけでなく、一つの体制でもあることを見ないところにある。

まず、ソ連は率先してマルクス主義の社会主義に関する基本原則を現実生活の中で運用して、人類の歴史上最初の社会主義政権を樹立し、人民が主人である社会主義制度や生産手段公有制制度や社会主義文化制度および各種の社会生活制度を確立した。この一連の制度の確立は、科学的社会主義を理論から実践に変えた。この制度の確立は、資本主義がすべてという局面を打ち破り、世界社会主義運動に現実の輝かしい模範を樹立した。ソ連の社会主義制度がなかったら、世界の社会主義制度建設はまだ暗黒の中で探索してたといえる。ソ連社会主義制度の樹立は、社会経済の発展を十分に促進し、社会主義の優位性を十分に発揮させ、世界社会主義の進展を力強く促進した。

次に、ソ連は社会主義制度を建設する過程で、疑いもなく自国の国情から出発し、科学的社会主義のソ連化を実現した。当時の社会主義制度が樹立されたばかりで、経済文化がかなり遅れ、世界資本主義の封鎖・干渉や転覆活動に対して、高度に集中した計画経済体制や高度に集中した国有経済体制や権力が高度に集中した政治体制を採用し、国家が集中的に文化・体育・衛生事業などをおこなう挙国文化体制などを採用した。これらの体制は、制度の根本的な要求を体現しているだけでなく、ソ連の当時の国際・国内状況の具体的な反映でもある。これらの体制は、ソ連経済や社会の各種の事業の急速な発展に巨大な貢献をなし、そのほかの社会主義国家が自国の国情に合致した社会主義体制を建設するために、現実の模範を提供した。今日、我々がソ連モデルを評価する時、その体制に存在したいくつかの欠点をみるだけではだめで、ソ連モデルの社会主義制度の属性を見て、我々はそれを継承し発展させているということを見なければならぬ。そうでなければ、我々は社会主義制度の歴史を解釈しようがなく、我々が建設する社会主義制度に有力な理論支柱を提供することができなくなる。

二、ソ連モデル解体の根本原因

ソ連解体の原因は数多い。西側の学者と中国は、多数の解釈をおこなっており、帰納すると十数種に達する。たとえば、ゴルバチョフが革命を裏切ったことに帰納する、経済崩壊として概括する、党員幹部の官僚主義や民衆からの離脱だと言う、軍備競争がソ連をつぶしたという、さらにアメリカの平和変質だという等々。これらは当然にもソ連崩壊の因素である。しかし、私個人は、ソ連モデル失敗の根本原因は、ソ連は国際国内情勢の変化によく対応して、合理的に自己の制度と体制を調整せず、社会主義の優位性と吸引力を発揮できず、それによって経済生活は改善されず、人民の価値と尊厳も満足させず、人々の

社会主義の理想と新年の喪失につながったことだ、と考えている。もちろん、これはソ連モデルが初めから誤っており失敗だったということと同じではない。逆に、ソ連モデルが打ち立てられたばかりの時、社会主義制度の優越性が十分に発揮されただけでなく、体制の優越性も十分に発揮され、ちょうど体制と制度の優越性の加重が、ソ連を短期間で十分に発展させ、分厚い総合国力を蓄積し、アメリカと対抗して全世界で覇を競うようにさせたのである。もし体制と制度の優越がなかったら、ソ連の崛起を説明することは難しい。この制度と体制の優越の加重効果は、多くの社会主義国家建設の初期にも反映されている。東欧、中国などである。

しかし、いかなる体制の樹立も、その特殊な歴史的条件がある。この歴史的条件の下で、体制はよい効果を発揮する。もし条件が変化したら、体制の限界効用は減少するかマイナスになるであろう。ソ連の体制が樹立された初期は、経済の困難と外部の転覆活動・封鎖があり、集中された経済・政治と文化体制は極めて強力な資源動員能力があり、重大な不足と困難を克服できた。しかし、社会経済条件の改善や国際環境の緩和につれて、この集中した体制は人々の積極性、主体性と創造性に影響し、効率の発揮を妨げた。実はこの状況をソ連の指導者は早くから意識しており、改革をおこなった。フルシチョフ、ブレジネフ、アンドロポフなどは、多くの改革の措置を取った。しかし、これらの改革は体制が停滞している原因を根本的には解決せず、変化した国際国内状況を十分には考慮せず、体制の劣勢は際立ってきた。後のゴルバチョフは根本的に体制を化育しようと試みた。しかし、改革の方向と方法はソ連に徹底的に社会主義制度を改変させ、体制の優位性がなくなっただけでなく制度の優位性もなくなり、二つの優位性の組み合わせが二つの劣等性の組み合わせに変わった。この組み合わせは必然的に社会主義の解体へと導いた。東欧の失敗は、ソ連の失敗の普遍的原因があるだけでなく、いかにして自己の国情に基づいて自己の体制を選択し調整するか、ソ連モデルを引き写す体制であってはならないという特殊原因がある。だから、東欧の失敗の原因をソ連モデルに帰することはできず、創造性をもってソ連の体制を学びたえまなく自国の国情に基づいて自己の体制を調整することをしなかったことに帰すべきである。

三、中国特色社会主義とソ連モデルの関係

中国特色社会主義とソ連モデルの関係については、何人かの学者が探索をおこなっている。その主流を占める観点は、改革開放以前は、中国はソ連を模倣し、開放改革以後は中国はソ連モデルを放棄し自己の中国特色社会主義を打ち立てた、というものである。言葉の裏の意味は、ソ連モデルは誤りであり、ソ連モデルを放棄しなければ我々は新しい道を切り開くことはできない、ということである。過去のソ連モデルは中国の国情に合致せず、だから我々の過去の建設はあまり成功しなかった、と考える学者もいる。現在は我々は自己の道を探ることに成功し、だから中国の発展は早い。これらの言い方は、道理があるかのようなものである。しかし、論理上少し問題があるといつも思っている。私は、中国特色社会主義とソ連モデルの間には引き写しと放棄の関係だけではなく、より複雑な関係がある、と考えている。

まず、中国はソ連モデルの制度の面を学び参考とし、中国で社会主義制度を樹立し、この制度は中国社会の進歩と発展を促進した。だから、制度の面では、中国特色社会主義とソ連の制度の上では、一定の継承性がある。同時に、我々はソ連の体制の長所を参考にしただけでなく、その短所をも克服し、この基礎の上に自己の体制を樹立した。一定の革新性がある。すでに党の八回大会で、わが党はソ連の体制とやり方に反省をおこない、国情に基づき中国の発展の道と策略について設定をおこなった。ソ連共産党二〇回大会の後、中国共産党はソ連に存在した問題について分析し、再びソ連と同じ失敗を繰り返さないこ

とを提出した。中ソ関係が悪化した後、中国はソ連の体制と制度に対して厳しい批判をおこない、それをツァー主義と覇権主義と称した。そのような状況下では、中国はソ連モデルを模倣したとは言いがたいのである。実際には、我々は建国後に中国自身の道と体制を探索していた。この探索はある程度は成功し、解放後我々が樹立した多くの制度は運用がたいへんよく、中国の急速な発展を促進した、というべきである。しかし、時間の推移や条件の改善ともなって、私たち自身が樹立した体制は、完全でなくなっただけではなく、新しく変化した国情と国際環境に適応せず、欠陥は日ごとに明らかになった。

従って、私は、改革開放以前に我々に存在していた弱点はソ連モデルの誤りではなく、中国伝統体制の未成熟であり不完全である、と考えている。我々の改革開放以後は過去の中国伝統体制の経験と教訓を吸収し参考とする基礎の上に、たえまなく新しい状況下で中国の最新の国情に合致する体制を創造した必然的な結果である。我々は、中国の過去の誤りをソ連モデルに全面的に帰結させることはできない。これは客観的ではなく不公平でもある。また今日のあらゆる成果を中国特色社会主義に帰結させ、ソ連の制度の我々に対する基礎固めの役割とソ連の体制への参考を無視することもできない。結局、中国特色社会主義はソ連モデルの継承と発展でもあり、国情に基づく創造でもある。我々はソ連モデルの歴史的な位置と役割をより科学的に評価し、社会主義事業のより進んだ発展を推し進めるべきである。